

1. (1) C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, $\text{rot}(\text{grad}(f)) = \mathbf{0}$ を示せ.
 (2) \mathbb{R}^3 上の C^∞ 級ベクトル場 \mathbf{V} に対し, $\text{div}(\text{rot}\mathbf{V}) = 0$ を示せ.
2. $S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 + y^2 + z^2 = 1, z \geq 0\}$ とおく.
 (1) S は境界つき曲面であることを示せ. ∂S を求めよ. (例 92 を参照せよ)
 (2) S の向き $\mathbf{n}: S \rightarrow \mathbb{R}^3$ を, $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := \mathbf{u} (\forall \mathbf{u} \in S)$ で定める. \mathbf{n} が誘導する ∂S の向きを求めよ.
 (3) (2) の向きについて, \mathbb{R}^3 上のベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := (-y + z, z + x, z)$ に対し, $\int_{\partial S} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ.
 (4) (3) の \mathbf{V} に対し $\text{rot}\mathbf{V}$ を求めよ. $D^\circ := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$ と $\varphi: D^\circ \rightarrow S, \varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$ に対し, $\int_{D^\circ} \text{rot}\mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}(s, t) ds dt$ を計算し (3) と比較せよ. ただし $\hat{\mathbf{n}} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi$ である.
3. $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ を $f(x, y, z) := z + x^2 + y^2 - 1$ で定義し, $S := f^{-1}(0) \cap \{z \geq 0\}$ とおく.
 (1) S は境界つき曲面であることを示せ. ∂S を求めよ.
 (2) S の向き $\mathbf{n}: S \rightarrow \mathbb{R}^3$ を $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := \frac{\text{grad}(f)(\mathbf{u})}{|\text{grad}(f)(\mathbf{u})|}$ で定義する (補題 64 参照). \mathbf{n} が ∂S に誘導する向きを求めよ.
 (3) 前問 (3) の \mathbf{V} に対し, $\int_S \text{rot}\mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.
4. 向き付けられた境界つき曲面 $(S, \mathbf{n}), (S', \mathbf{n}')$ は $\partial S = \partial S'$ をみたし, さらに $\mathbf{u} \in \partial S = \partial S'$ に対し $\mathbf{n}(\mathbf{u}) = \mathbf{n}'(\mathbf{u})$ をみたすとする. このとき $\int_S \text{rot}\mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} + \int_{S'} \text{rot}\mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} = 0$ であることを示せ.
5. 閉曲面 S と \mathbb{R}^3 上のベクトル場 \mathbf{V} に対し, $\int_S \text{rot}\mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} = 0$ を示せ. (ヒント: S は境界を持たない)
6. $S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 + y^2 = 1, |z| \leq 1\}$ は $\partial S = \partial_+ S \cup \partial_- S, \partial_\pm S := \{(x, y, \pm 1) \in S\}$ を境界とするような境界つき曲面であり, $\mathbf{n}(1, 0, 0) = (1, 0, 0)$ となるような S の向き \mathbf{n} が $\partial_\pm S$ に誘導する向きは $\mathbf{l}_\pm(t) := (\cos(\mp t), \sin(\mp t), \pm 1)$ で表されることを示せ.
7. Stokes の定理における「コンパクト」(\mathbb{R}^3 の有界閉集合であること) という条件は必要である. ここでは有界性が必要であることを確かめよう. $S := \{(x, y, 0) \in \mathbb{R}^3 \mid y \geq 0\}$ とする.
 (1) S は \mathbb{R}^3 の閉集合だが, 有界でないことを示せ.
 (2) $\varphi: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^3, \varphi(s, t) := (s, t, 0)$ は, 各 $\mathbf{u} \in S$ の近くの局所座標であることを示せ. また $\partial S = \{(x, 0, 0) \in S\}$ であることを示せ.
 (3) S の向きを, $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := (0, 0, 1) (\forall \mathbf{u} \in S)$ となる法ベクトルで定める. このとき, (2) の座標は向きを保つことを示せ. また, $\mathbf{l}: \mathbb{R} \rightarrow \partial S, \mathbf{l}(t) := (t, 0, 0)$ は \mathbf{n} から誘導される ∂S の向きを表すことを示せ.
 (4) \mathbb{R}^3 上のベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := (e^{-x^2}, x, 0)$ に対し, $\int_{\partial S} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ. “ $\int_S \text{rot}\mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ ” は有限か?
8. $S \subset \mathbb{R}^3$ を曲面とし (境界はあってもなくてもよい), $\varphi: U \rightarrow S$ を局所座標とする. $\varphi(U)$ 上の曲線 $\mathbf{l}: (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow \varphi(U)$ が与えられたとき, U 上の曲線 $\mathbf{m}: (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow U$ を $\mathbf{m} := \varphi^{-1} \circ \mathbf{l}$ で定義する.
 (1) $\mathbf{m}(t) = \begin{pmatrix} m_1(t) \\ m_2(t) \end{pmatrix}$ と書く. $\frac{d\mathbf{l}}{dt}(t)$ を $m'_1(t), m'_2(t)$ と $\frac{\partial \varphi}{\partial s}(\mathbf{m}(t)), \frac{\partial \varphi}{\partial t}(\mathbf{m}(t))$ を用いて表わせ. (7/21 の講義で使います)
 (2) $\mathbf{u}_0 = \mathbf{l}(0)$ とおく. $\frac{d\mathbf{l}}{dt}(0) \in T_{\mathbf{u}_0} S$ であることを示せ.
9. 形式的に “ $\nabla := (\frac{\partial}{\partial x}, \frac{\partial}{\partial y}, \frac{\partial}{\partial z})$ ” とおくと, 次の形式的な「等式」を示せ.
 (1) \mathbb{R}^3 のベクトル場 \mathbf{V} に対し, “ $\nabla \cdot \mathbf{V} = \text{div}\mathbf{V}$ ”
 (2) C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, “ $(\nabla \cdot \nabla)f = \Delta f$ ” (演習 12.1 参照)

(提出の必要はありません)

補足：境界に導かれる向き（定義 94）について。

また向きに関してややこしい話が出てきて辟易しますが，Stokes の定理を定理 97 の形で成り立たせるためには，向きのついた曲面 (S, \mathbf{n}) に対して， ∂S の向きを正しく定めないといけません．それが定義 94 の「 \mathbf{n} が ∂S に導く向き」です．定義 94 と同じ内容を，次のようにも言い換えられます（各自確かめてください）：

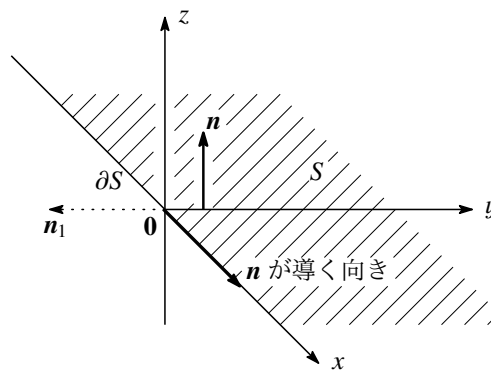
(S, \mathbf{n}) を向きづけられた境界つき曲面とし， $\mathbf{u} \in \partial S$ のまわりの局所座標 $\varphi: W \rightarrow \mathbb{R}^3$ で向きを保つものを取ります． $U := W \cap \mathbb{H}^2$ とおくと $\varphi(U) \subset S$ で， $\forall \mathbf{a} \in U$ に対し

$$(\partial_s \varphi \times \partial_t \varphi)(\mathbf{a}) = k \cdot \mathbf{n}(\varphi(\mathbf{a}))$$

をみたす定数 k が存在します． φ が向きを保つとは，任意の $\mathbf{a} \in U$ に対し $k > 0$ となるということです． $\varphi(\mathbf{a}) = \mathbf{u}$ となる $\mathbf{a} \in U$ を取るとき， $\mathbf{u} \in \partial S$ であることから， $\mathbf{a} = (s_0, 0) \in \partial \mathbb{H}^2$ という形です．十分小さい $\epsilon > 0$ に対し， $I: (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow \partial S$ を $I(t) := \varphi(t - s_0, 0, 0)$ とおけば， I は \mathbf{n} が導く ∂S の向きを表します．

さらに言い換えると， \mathbf{n} が導く ∂S の向きとは，上のような座標について $\partial_s \varphi(\mathbf{a})$ の方向である，とも言えます．

特別な場合として， $S := \{(x, y, 0) \in \mathbb{R}^3 \mid y \geq 0\}$ について考えましょう（下図参照）．平面 $z = 0$ を xy 平面とみなし，その中に含まれる上半平面を S としたわけです．境界 ∂S は x 軸です．向きを $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := (0, 0, 1) (\forall \mathbf{u} \in S)$ ，つまり z 座標の正の方向と定めたとき， \mathbf{n} が ∂S に導く向きは， x 軸の正の方向です．



7/14 の問題 7. (2), (3) あたりも参照してください．

より平たく，次のようにも言えます： \mathbf{n} が指し示す向きが「上」になるように ∂S 上に立つことを想像してください． \mathbf{n} が導く向きに沿って ∂S 上を歩くと，左手側に曲面が見えます．右手側は曲面が途絶えています．

2次元の場合に出てきた「領域の境界としての曲線の向き」との共通点に気づくでしょうか．

向きは数学の至るところで問題を引き起こすもので，避けては通れない問題です．「幾何入門」の場合は，積分の値の正負を決めるためにどうしても必要なものです．

幾何入門レポート問題 13 (2017 年 7 月 14 日)

担当：境 圭一

$S := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z \geq 0\}$ は境界つき曲面である (証明不要). S の向きを $\mathbf{n}(\mathbf{u}) = -\mathbf{u}$ ($\forall \mathbf{u} \in S$) で与える.
 $\mathbf{V}(x, y, z) := (ye^z, -xe^z, z)$ に対し, $\int_S \text{rot} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.

(7/21 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/17_geometry/17_geometry.html